Ｒ４年度静言研アンケート（児童言語）

　（回答　東部１０校１８名　中部１８校２６名　西部１２校２３名　合計４０校６７名）

〇教室設置場所

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 校内 | その他 |
| 東部 | １０ | ０ |
| 中部 | １７ | １ |
| 西部 | １２ | ０ |
| 合計 | ３９ | １ |

〇指導対象：言語

〇担当行政：教育

〇担当者の年齢

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | ～２９歳 | ３０～３９歳 | ４０～４９歳 | ５０～５９歳 | ６０歳～ | 合計 |
| 東部 | １ | １ | ４ | ５ | ６ | １８ |
| 中部 | １ | ５ | ５ | １１ | ４ | ２６ |
| 西部 | ０ | ０ | ４ | １３ | ６ | ２３ |
| 合計 | ２  （３％） | ６  （９％） | １３  （２０％） | ２９  （４４％） | １６  （２４％） | ６７ |

〇担当者の職名（非会員含む）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 会計年度職員 | 非常勤 | 教諭 | 合計 |
| 東部 | １ | ２ | １５ | １８ |
| 中部 | ０ | ３ | ２３ | ２６ |
| 西部 | ０ | ２ | ２１ | ２３ |
| 合計 | １  （２％） | ７  （１０％） | ５９  （８８％） | ６７ |

〇担当者の経験年数

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | １～３年 | ４～６年 | ７～９年 | １０年～ |
| 東部 | ６ | ５ | ２ | ４ |
| 中部 | １３ | ５ | ３ | ５ |
| 西部 | ４ | ８ | ４ | ７ |
| 合計 | ２３  （３５％） | １８  （２７％） | ９  （１４％） | １６  （２４％） |

〇勤務実態

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 概ね勤務時間 | やや超過 | 一部の指導者は大幅に超過 | 大幅超過 |
| 東部 | １ | ８ | １ | ０ |
| 中部 | ４ | １０ | ０ | ４ |
| 西部 | ４ | ６ | ２ | ０ |
| 合計 | ９  （２２％） | ２４  （６０％） | ３  （８％） | ４  （１０％） |

〇勤務時間外

|  |  |
| --- | --- |
|  | 勤務時間外 |
| 東部 | なし |
| 中部 | ４ |
| 西部 | ５ |
| 合計 | ９ |

　〈中部〉

・保護者の事情

・他校児童受け入れのため

〈西部〉

　・言語通級という特性上、ほとんどの保護者が学校の放課後の時間帯での通級を希望していることと、各学校の授業時間の増加、共働き家庭の増加で１５時以降の指導時間帯を希望する家庭が多いこと、また、短期で退級が望める講音の誤りのみ相談が激減し、発達障害的な支援が必要となる児童が増え、通級期間が２年以上と長期化することで高学年児童が増加していることなどが

〇市内の設置校　非会員数　※状況調査の方が確かだと思います。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 設置校 | 非会員数 |
| 東部 | １０ | ４ |
| 中部 | １８ | ３ |
| 西部 | １２ | ２１ |
| 合計 | ４０ | ２８ |

〇後継者育成の工夫

＜東部＞

・特になし

・市に一人だけの担当なので、自分がことばの教室を離れた時に新しい方が入ってきます。後継者育成は難しいです。

公的な工夫

・年々学級数を複数にし、担当者を増やすことで、後継者を育成している。

・通級指導担当経験のある方にボランティアアドバイザーとして来て頂き、指導のアドバイスを頂いている。

・市内通級担当者研修会を毎月開催していることにより、指導内容の検討、情報交換ができる

・年２回ある指導経過報告書を担当者間で回し読みすることによって、研修を深めている。

・日言研、全難言等の研修機会は、公費で参加させていただいている。

会員の工夫

・具体的な支援方法のまとめノートを作ったり、作成した資料をデータとして市内共有フォルダに保存したりして、活用をしている

・言語・発達・幼児が1つの学校に設置されているので、同時に転任することのないようにし、３つの教室の研修を深める。

・教室運営面で、運営にかかわる書類をデータ保存、フォルダ管理し、後年誰が担当になっても運営面での理解はしやすいように工夫をしている。指導面に関しては、経験豊富な幼児担当の指導者がいるので、随時聞くようにしている

・指導がない時間に情報共有や指導に困ったときに相談するなど時間を作っている。

・担当者が異動する際に、未経験者にも募集する

・幼児ことばの教室が併設されており、ベテランの指導員と研修ができる。

・地区の特別支援教育の集まり等で、他校の教員に個人的に声をかける。"

＜中部＞

・なし

・特にしていない

公的な工夫

・新任の担当には、市のスーパーティーチャーを活用し、アドバイスをいただいている。

・他の学校へ指導を見に行く機会がある。

・定年退職予定者のある学校には、育成枠があった

・育成枠の加配がある

・ことばの教室の指導者の希望があるかを校長に聞いてもらっている

・言語及び発達の担当者研修会

・通級担当による新任者育成自主研修）

・通級担当者での研修会が設けられる。

・ベテラン教員の代表者が、通級１年目〜３年目を対象にオンライン研修を月2回行っている。

・研修会の企画

・年2回の市の通級者担当者会の実施

・通級の就学支援の場に前担当者を入れて会合をしていく

・2人担当校で新担当者と経験者が研修できるようにする。

・市で年6回の担当者研修会を設けてくれました。そのうち3回は講師の先生が来てくれました。

・新任担当のために、スーパーティーチャー(退職したベテランの通級経験者）を年35時間ほどお願いしてくれました。指導内容や指導計画、報告書など、多岐にわたって指導していただいた。

・新任担当は、他の教室とリモートで繋がり、実際の指導の様子を参観した

・東部発達支援センターのリモート講義に参加した。

・電話等で連絡を取り合った。

会員の工夫

・静言研地区講習会

・引き継ぎ事項の明文化

・レジュメを出し、週１回打合せ会を実施。

・指導教材の蓄積

・指導方法及び記録のデータ蓄積

・教室内での研修の充実

・オンラインを活用した他校との共同研修

〈西部〉

・２年単位で担当が変わるため、特になし

公的な工夫

・ことばの教室未経験者を担当に入れる。

・言語通級の指導に必要な指導技術を身に着けられるような研修を計画（予算の確保）

・市入退級審査会後の研修、浜松市教育センター研修(言語関係はほとんどない)

・市の研修会を利用する。

・今年度、市教委による病院STを招聘しての研修が年5回行われた

・教室説明会や校内研修でことばの教室について紹介している

・浜松市では、通級指導教室設置校が集まって入退級審査会を行っている。その際に、それぞれの事例やそれぞれの教室の指導について紹介しあうなどの研修を行っている。

・審査会での研修

会員の工夫

|  |
| --- |
| ・各種研修会案内をインフォメーションしている。 ・互いに情報交換をし、ネットワークを広げている。 |
| ・教室内で指導方法や教材を紹介しあえるようにする（聞きあえるようにする） ・自由に使える効果的な教材などをそろえる |
| ・研修会や講習会がある |
| ・ことばの教室について他の教員に知ってもらうように校内研修などで紹介する。 |
| ・検査器具の学びあい、指導例や教材の共有 |
| ・２名担当がいるところは、経験年数が多い方が指導方法を教える。  ・静言研の研修会を利用する。 |
| ・教室内で、先達からの指導法授受 |
| ・週1回、研修の時間を確保し、経験の浅い担当者が気軽に相談できるようにしている。 |
| ・ベテランの支援、静言研の新任者研修 |
| ・静言研や日言研のオンライン講習会を担当者で一緒に見て研修をする。 ・各種研修会（LDかながわ、発達協会、特別支援教師士の研修会等）に参加したり、紹介したりしている |

〇年度末見込みでの正規の総人数

|  |  |
| --- | --- |
|  | 合計 |
| 東部 | ３５３ |
| 中部 | ４７０ |
| 西部 | ３５８ |
| 合計 | １１８１ |

〇年度末見込みでの教育課程外の総人数

|  |  |
| --- | --- |
|  | 合計 |
| 東部 | ３５ |
| 中部 | ９６ |
| 西部 | ４４ |
| 合計 | １７５ |

〇指導者１人当たりの最大指導人数

|  |  |
| --- | --- |
|  | 最大 |
| 東部 | ３８ |
| 中部 | ３４ |
| 西部 | ２７ |

〇待機児人数

|  |  |
| --- | --- |
| 東部 | １９ |
| 中部 | ３７ |
| 西部 | ５６ |
| 合計 | １１２ |

〇年齢別人数

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 小１ | 小２ | 小３ | 小４ | 小５ | 小６ |
| 東部 | １１８ | ７３ | ５８ | １８ | １７ | １３ |
| 中部 | １５５ | １２５ | ７４ | ４７ | １９ | ２ |
| 西部 | １５３ | ８９ | ５５ | ２６ | １９ | ４ |
| 合計 | ４２６ | ２８７ | １８７ | ９１ | ５５ | １９ |

〇障害種別（重複可）

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 構音 | 吃音 | 言語発達遅滞 | LD | ADHD | ASD | 難聴 | 肢体不自由 | その他 |
| 東部 | ２３１ | ６６ | ９５ | １ | １ | ２ | ２ | ０ | １３ |
| 中部 | ２３６ | ５８ | １７７ | ８ | ６ | ５ | ０ | １ | １ |
| 西部 | ２３６ | １１１ | ９１ | ０ | ０ | ０ | ０ | ０ | ２ |

〇発達障害を併せ持っている人数

|  |  |
| --- | --- |
|  | 合計 |
| 東部 | ６５ |
| 中部 | １７１ |
| 西部 | １０７ |

〇サテライトの実施

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 実施 | 未実施 |
| 東部 | ３ | ７ |
| 中部 | ２ | １６ |
| 西部 | １ | １１ |
| 合計 | ６ | ３４ |

〇サテライト指導に対する担当者の意向

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 必要 | どちらとも言えない | 不要 | 無回答 |
| 東部 | ５ | ３ | ２ | ０ |
| 中部 | ４ | ５ | ２ | ６ |
| 西部 | ２ | ８ | ２ | ０ |
| 合計 | １１ | １６ | ６ | ６ |

〇サテライト指導の成果

〈東部〉

・サテライト校の教員の言語障害への意識が高まり、需要が増えている。保護者の送迎が必要ないことも需要が増えた要因であると考えられる。

・子どもが通いやすくなって、保護者の負担も減った。

・送迎が難しい子どもでもサテライト指導であれば指導が可能となる。

・移動の負担が少なくなる

〈中部〉

・教育の機会の保障

・保護者の送迎の負担が減った。在籍校の児童の様子を把握することができた。午前中の時間を使って、効率良く指導を行えた。

・指導機会の確保、校内支援や早期支援

・児童の送り迎えが難しい保護者にとっては、大変ありがたい。

〈西部〉

・通級に片道30分以上かかるため月1回程度しか指導できなかった児童に対し、月1回程度の巡回指導を実施したところ、指導の機会が増えて発音の改善が見られた。

〇サテライト指導の課題

〈東部〉

・設置校に比べて、指導用具が少なく、持ち運べる代替用具で指導を行っている。需要が増えたが、指導時間がすべて埋まっているため新規の児童が入る余裕がない。

・行き帰りの時間の負担、サテライトでの教室・教材・教具・設備の整備

・保護者との連絡が取りにくい。

・言語か発達か一つしかないとどちらも作ってほしいという保護者からの意見も多い。

・一週間のうち、誰かがサテライトに行っているという状況が多いため、通級担当者みんなで集まって打合せする時間が少ない。

〈中部〉

・保護者が学校任せになる

・学級担任やコーディネーターと情報共有する時間をあまり確保できなかった。

・ＩＣＴ機器が使いにくい。教室環境がよくない。

・通級人数が多いときは、時間の確保が難しい。

〈西部〉

・浜松市天竜区は広域のため移動時間がかかり、1回の巡回指導を行うために半日を費やすことがある。現在は児童担当が1人のため、巡回指導の日は他の通級児の指導を休まなければならない。サテライトを行う担当を1人追加してほしい（フル勤務でなくてもよいので）。

〇他市町からの受け入れ人数

|  |  |
| --- | --- |
| 東部 | ３ |
| 中部 | ０ |
| 西部 | ０ |
| 合計 | ３ |

〇往復1時間以上の子の人数

|  |  |
| --- | --- |
| 東部 | １６ |
| 中部 | ４ |
| 西部 | ３ |
| 合計 | ２３ |

〇往復1時間以上の子で通級に結びつかなかった子の人数

|  |  |
| --- | --- |
| 東部 | ０ |
| 中部 | ５ |
| 西部 | １ |
| 合計 | ６ |

〇適当な静言研の研修回数

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | １回 | ２回 | ３回 | ４回 | ５回 | ６回 | ７回 | ８回 |
| 東部 |  | ２ | ５ | １ | １ | １ |  |  |
| 中部 |  | ４ | ５ | １ | ４ | ２ | ２ |  |
| 西部 |  |  | ２ | １ | ５ | １ | １ | ２ |
| 合計 |  | ６ | １２ | ３ | １０ | ４ | ３ | ２ |

〇研修形式の希望

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 講演会 | 提案 | 話し合い | 事例検討 | ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ | 教材紹介 | 実践発表 | 参観 | 授業研究 |
| 東部 | ６ | １ | ５ | ４ | ２ | １ |  |  |  |
| 中部 | １１ | ５ | ４ | １０ | ５ |  | １ | ２ | １ |
| 西部 | １１ | １ | １ | ４ | ４ |  |  | ３ | １ |
| 合計 | ２８ | ７ | １０ | １８ | １１ | １ | １ | ５ | ２ |

・言語指導の研修をもっとやってほしい。発達障害の内容が多すぎる。

・オンラインでの研修でお願いしたい。

〇静言研以外で参加した研修

〈東部〉

行政

・県教委通級指導担当者研修会

・静東教育事務所主催の新任特別支援学級担任

・通級指導教室担当者研修

・特別支援教育コーディネーター研修会

・特別支援教育研修会

・共生社会を実現する教育研究セミナー

個人

・アスタ主催オンライン研修

・全難言（はじめのいっぽ）

・日言研（第５５回 日本言語障害児教育研究大会）

・はじめのいっぽ（全難言）

・こどもの心勉強会

・おひさま勉強会

・ST構音勉強会

・心理カウンセラー養成講座

・発達障害事例講演会

・言語聴覚士会構音研修会

・自主勉強会のオンライン会

・福島吃音懇話会

〈中部〉

行政

・県担当者研修

・地区研究協会主催研修会　7月末あすなろ研修会

・焼津市「通級指導教室担当研修会」

・志太・榛原地区新任研

個人

・静岡県言語聴覚士会

・小児難聴療育担当者研修会

・親の会の学習会

・ＬＤ学会

・臨床発達心理士会

・静岡言友会

・吃音研修会、

・日言研

・全難言

・聴覚支援センター

・子ども発達支援研究会

・大阪医科薬科大学LDセンター

・構音研修会

・特別支援教育研究会

・カウンセリング研修会"

・きらり

・広島大学

・コグトレ研修

・東部発達支援センター研修

〈西部〉

行政

・市で実施の構音指導研修や言語発達遅滞の研修（市立病院の言語聴覚士によるもの）

・浜松市で行っている言語研修

・ICT活用研修

・LD読み書き研修

・県主催：通級指導教室担当者研修

・市教委主催の研修会

・中東遠総合医療センターSTとの研修

・MIMの研修

個人

・アスタ

・コハケン

・クリストファー"

・全難言：はじめのいっぽ

・日言研：日本言語障害児教育研究会夏季研修

・東海四県：静岡大会

・親の会の講演会

・福島の吃音研修

・LDかながわ研修会（読み書き障害とWISC４知能検査の解釈についての研修会）

・国立特別支援教育総合研究所の視覚・聴覚に関する免許認定講習